

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 海洋科学 高等学校	
学校教育目標	県内唯一の水産・海洋系高校として、地域や関係機関と連携した実践的・体験的な教育活動を通して、水産・海洋教育の充実を図るとともに、水産業や海洋関連産業を担う職業人に必要な力を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	〇的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・グランドデザイン(「目指す学校像」「卒業までに育成を目指す力」「3年間の学び」「求める生徒像)」が明確。 ・教頭・主幹教諭・事務長を筆頭に全教職員が校長の学校経営ビジョンを良く理解し、教育活動を展開している。	・今後も校長が示した学校運営方針の下、管理職とミドルリーダー(主幹教諭、指導教諭、分掌主任等)が互いにしっかりと連携を深めて、学校目標達成に向け、組織的に取り組みたい。
	PDCAサイクル	〇重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 〇取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 〇予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・重点目標を達成するために、焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能している。 ・取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させている。 ・上記について、「今後の改善策」の欄に具体的な姿勢や取組を明記し実践している。 ・「中間評価を受けての改善事項」に基づいて、具体的な取組を確実に実行していることも確認できた。	・今後も目標や指標については、生徒の現状を踏まえながら適切な時期に評価を行った上で改善、発展させ、学校目標の達成に繋げていきたい。
	社会との連携・接続	〇「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学校の取組等の情報を外部へ適切に発信している。 (学校ホームページの更新125回、SNSによる発信64回) ・アンケートを通して、生徒や保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っている。 ・学校外の関係機関との連携や人材の活用を継続的に行うことができ、学びの深化に繋がっている。 (地域間連携事業を12回、小中高連携事業を13回)	・今後も情報発信を積極的に行い、海洋科学高校の認知度を向上させていきたい。 ・現在は発信者が限定されているので、研修を重ね発信者を増やし更新頻度を増やしていきたい。 ・外部との連携事業を振り返り、生徒の成長に繋がる効果的な連携活動となるようにしていきたい。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	〇授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 〇総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 〇生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・ICT機器を積極的に活用することにより、授業の効率化を図っている。 ・また、生徒の興味・関心を引き出すための工夫をしている。 ・丁寧でわかりやすい授業をするように心掛けている様子が確認できた。 ・「教員が問いを発し、ある生徒に答えさせ、教員が解説を行う」というパターンがまだ散見された。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うため、全教員で研修を積み重ねる必要がある。 ・まずは、以下のような基本的な展開(①→②→③)を授業に組み込んでほしい。 ①問いや課題に対して、生徒一人ひとりが自分なりの考えを持つ時間を確保する。 ②協働的な学びにより、互いの考えを認め合ったり、自分の考えを深化・拡充したりする場を設定する。 ③自分なりの考えを最終決定する時間や学びを振り返る時間を確保する。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していきたい。 ※具体的取組 ① スクールプランに位置づける。 ② 職員研修、授業研究会(研究授業)において共通理解を図る。 ③ 思考力・判断力・表現力を育成する授業を推進する。 (各教科・学科ごとに学習指導要領に基づいた授業を実施) ④ 思考力・判断力・表現力について、学習状況(習得状況)を正しく見取ることのできる評価方法を確立する。 (効果的な調査問題・単元テスト等の開発)
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	〇計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 〇いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・生徒アンケートに加え、学期初めの全生徒面談を積極的に活用し、人間関係等の把握に努めている。 ・特に1年次には、トラブルが発生することを予測した体制づくりをしている。 ・また、人間関係構築に関する授業や講演等を実施している。 ・大きな問題も発生しておらず、早期発見・早期対応の成果が表れていると考えられる。 ・引き続き予防対策の充実を期待する。	・生徒が安定した学校生活を送れるよう、1年生については入学時の初期指導を丁寧に行いたい。 ・生徒間トラブルに関しては問題発覚後の対処はできたと考えますが、もっと早い段階で発見していきたい。そのために面談やアンケートを実施するタイミングを検討したい。人との繋がりを学ぶ過程でトラブルに遭遇し乗り越えることが必要な生徒もいる。サポートできるよう取り組んでいきたい。 ・年度当初のスクールカウンセラーとの全員面談(1年生対象)を始め、各学年と連携して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談が必要な生徒への働きかけを適宜行いたい。 ・引き続き、各学期初めのHRAの時間、および週1回の「快陽タイム」を行い、生徒・教職員の人間関係づくりに努める。内容については、生徒の意見も積極的に取り入れたい。
	安全管理	〇学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 〇学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的な取組が行われているか。	・極めて良い。 ・多くの施設を見学したが、大変よく整理整頓されており、安全面・衛生面に十分配慮していることが伺えた。 ・危機管理マニュアルについては、様々な事案を想定し、網羅したものが作成されている。 ・情報伝達の手段についても、39メールを活用する等、迅速かつ正確な周知を図っている。	・新年度版の危機管理マニュアルについて、早期に全職員への説明、周知を確実にしたい。 ・危機管理マニュアルが日常的に活用されるように、配布方法も工夫していきたい。
信頼される学校づくり	働き方改革	〇生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・今年度から、部活動顧問の複数配置等、交替で対応することができる環境を作っている。 ・また、計画的に休暇・休養が取れるように改善されている。 ・39(一斉送信)メールを活用した連絡や紙からデータへの配付方法変更等、着実に効率化を進めている。 ・業務の偏りの改善や業務の見直し等、ICTの効果的な活用や全教員での検討を今後も進めてほしい。	・年間15日以上の子休取得が定着するように、下記の取組を重点的に行いたい。 ・ICTの効果的な活用(学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化など) ・関係機関から要請された参加行事の精選
	学校課題の解決に向けた取組等	〇定員確保に向けた取組の工夫がなされているか。 〇スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・近年、入学者数が増加傾向にある。 ・小中学校への説明会や出前授業の実施等、情報発信による効果が表れてきている。 ・生徒アンケートでは、「学校生活に満足している」と肯定的な回答をした生徒が76%である。 ・充実した学校生活を送ることができている生徒が多い。	・中学校での高校説明会で紹介するプレゼンテーションや動画などの内容の充実を図りたい。 ・高校で学ぶ内容を分かりやすく伝えられるような出前授業を計画し、小学生にも積極的に学校理解、産業理解を働き掛けていきたい。 ・生徒や保護者の満足度がさらに高まるように、教職員一丸となって学校教育に取り組みたい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長のリーダーシップの下、教頭・事務長・主幹教諭がその役割を十分に果たし、「中間評価を受けての改善事項」に基づいた具体的な取り組みを確実に実行している。</li> <li>・全教職員が気持ちよく教育活動を展開している雰囲気も伝わってきた。</li> <li>・「授業の活性化」「働き方改革」においてはまだ改善の余地があるが、それ以外の項目においては理想的な状態に達していると考える。</li> <li>・生徒の進路希望達成率は100%であり、専門分野への就職や進学等、海洋系人材育成に繋がることができている。</li> <li>・各種大会やコンテスト等、生徒の活躍する場面を多く創出することができ、上位入賞などの成果に繋がっている。このことが、学校に活気を生むと共に、学校の魅力を増大させている。</li> <li>・生徒へのヒアリングを通して、どの生徒も教員を大変信頼しており、学校生活への満足度も高いことが確認できた。</li> </ul>			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌主任等で構成する運営委員会を中心として、組織的な学校の課題解決をさらに押し進めていきたい。また、専門人材や関係機関を積極的に活用していきたい。</li> <li>・HPやSNS等の内容充実を図るとともに、市報や新聞等のメディアを活用し、本校の魅力を地域や小中学生にアピールし、学校の認知度の向上を図りたい。</li> <li>・授業改善、研究授業の取組を継続して行いながら、生徒の可能性を最大限に伸ばしていくことで、生徒の「学びに向かう力」の育成をさらに進めていきたい。</li> <li>・学校安全に係る教職員研修の充実を図ることで、生徒自身が危険を予測し、回避意識を身に付けるための防災教育の推進と学校における危機管理の徹底を図りたい。</li> <li>・水産海洋系高校としての役割を職員と生徒が一体になって共有し、今後も地域や産業界に必要とされ続ける学校を目指したい。</li> </ul>			